

# 佐賀市教育委員会評価結果報告書

[令和2年度事業]



令和3年8月

佐賀市教育委員会

## 目次

[1]	はじめに	2
[2]	佐賀市教育委員会における評価の実施	2
1	点検・評価のフロー図	2
2	評価スケジュール	3
3	評価項目及び評価方法	3
4	令和3年度佐賀市教育委員会評価委員会名簿	4
[3]	評価結果	
1	教育委員会の活動状況	5
(1)	教育委員会の会議運営の状況	6
(2)	教育委員会の各種活動の状況	7
(3)	教育委員会活動に関する評価委員からの評価	11
2	施策	12
	施策1	13
	施策2	16
	施策3	18
	施策4	19

## [ 1 ] はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正（平成20年4月1日施行）され、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たしていくため、教育委員会は、毎年、教育行政事務の管理及び執行状況について、点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することが規定されました。

この報告書は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定に基づき、令和2年度事業に係る佐賀市教育委員会の点検・評価を実施したものです。

### 地方教育行政の組織及び運営に関する法律

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

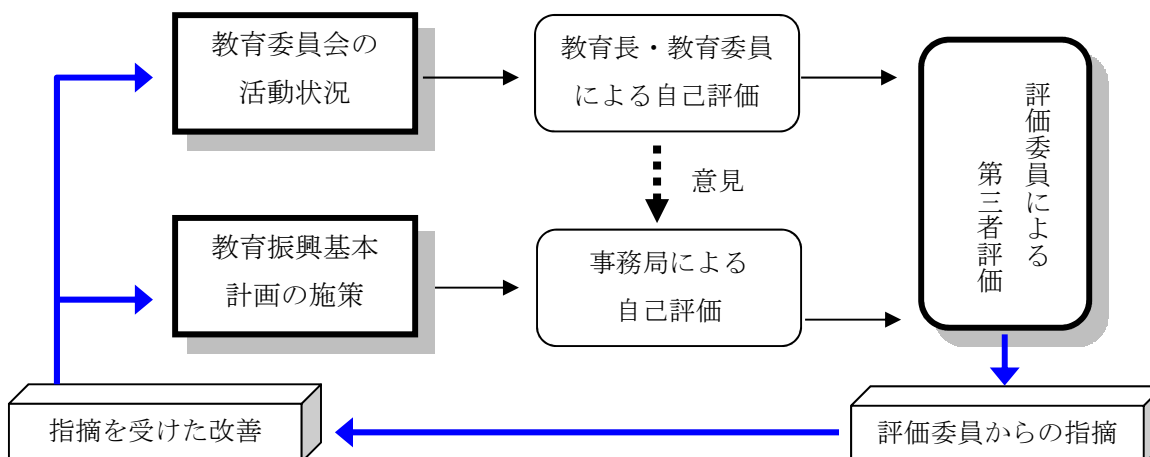
2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

## [ 2 ] 佐賀市教育委員会における評価の実施

佐賀市教育委員会では、教育に関し学識経験を有する者の知見を活用するために、佐賀市教育委員会評価委員会を設置しています。

評価の客観性を確保するため、教育委員会による自己評価に加え、評価委員会による第三者評価を行い、評価結果をもとに事業の継続的な改善を図っています。

### 1 点検・評価のフロー図



## 2 評価スケジュール

時期	内容
2月17日	事務局による事業内容の自己評価
6月8日	教育委員による活動状況の自己評価
7月12日	第1回評価委員会 ◇教育委員会の活動状況の評価 ◇施策3・4の評価
7月20日	第2回評価委員会 ◇施策1・2の評価
8月10日	教育委員会で評価結果、改善の方向性について協議
8月下旬	評価結果を8月定例市議会へ提出、 評価結果の公表（市ホームページへ掲載）

## 3 評価項目及び評価方法

### (1) 評価項目

- ◇令和2年度 佐賀市教育委員会の活動状況
- ◇令和2年度 佐賀市教育振興基本計画の進捗（施策1～施策4）

### (2) 評価方法

[自己評価] 4段階評価で実施

達 成	目標どおりの成果が上がっている
概 ね 達 成	一定の成果は上がっているが、課題もあり、取り組みを改善又は強化し、成果を上げることが必要である
やや不十分	成果が十分に上がっておらず、改善の必要がある
不 十 分	成果がほとんど上がっておらず、見直しの必要がある

[第三者評価] 4段階評価と対象事業（施策）に対する改善点をいただいた。

①	十分な成果が見られ、達成している
②	一定の成果が見られ、概ね達成している
③	一定の成果は見られるものの、やや不十分な部分も多い
④	成果が乏しく、改善を要する

#### 4 令和3年度佐賀市教育委員会評価委員会名簿

分野	所属	役職	名前
教育学・ 教育経営学	佐賀大学大学院 (学校教育学研究科)	教授	松尾 敏実
キャリア教育	福岡女学院大学 (人文学部)	教授	浮田 英彦
音楽教育	西九州大学 (子ども学部)	教授	櫻井 琴音
美術教育	佐賀女子短期大学 (こども未来学科)	准教授	大江 登美子
企業	佐賀新聞社 (営業局)	部長	水町 研一
市民活動団体	特定非営利活動法人 鳳雛塾	事務局長	竹内 陽慶

## 【3】評価結果

### 1. 教育委員会の活動状況

令和3年度（令和2年度事業）佐賀市教育委員会活動状況点検シート

1 教育委員会の活動状況

(1) 教育委員会の会議運営の状況

① 教育委員会会議運営の充実

令和2年度の目標	教育委員会会議について、定例会や臨時会とともに、必要に応じて事前に研修会を開催し、効率的な会議運営に努める。また、事業の成果や結果についても、事務局からの報告等により検証を行う。																																												
令和2年度に取り組む改善策	教育現場の実情、課題を的確に把握し、各委員が情報共有しながら課題解決に向けた議論を行う。また、第4次佐賀市教育振興基本計画に則りPDCAを機能させるよう、各事業の推進上の課題について、計画的に協議する。																																												
令和2年度の実績	<p>事務局から事前に資料提供を受け、各委員が十分に内容を把握した上で会議に臨んだ。また、会議では、活発な意見交換を行い、議案等の審議においても事務局からの説明に対し、必要な指摘や提案、質問などを行った。</p> <p>◇教育委員会会議の開催回数 <span style="float:right">単位:回</span></p> <table border="1" data-bbox="624 1171 1401 1335"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>令和元年度</th> <th>令和2年度</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>定例会</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>臨時会</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>研修会</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>◇定例会・臨時会の議案等の件数 <span style="float:right">単位:件</span></p> <table border="1" data-bbox="624 1413 1401 1532"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>令和元年度</th> <th>令和2年度</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>議案</td> <td>33</td> <td>36</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>報告等</td> <td>26</td> <td>24</td> <td>▲2</td> </tr> </tbody> </table> <p>・臨時会は、中学校教科用図書採択、教育委員会表彰、人事異動に関する報告及び承認などを実施</p> <p>◇研修会の議題等の件数 <span style="float:right">単位:件</span></p> <table border="1" data-bbox="624 1686 1401 1886"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>令和元年度</th> <th>令和2年度</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>議題</td> <td>18</td> <td>15</td> <td>▲3</td> </tr> <tr> <td>報告等</td> <td>15</td> <td>9</td> <td>▲6</td> </tr> <tr> <td>案件中の委員提案</td> <td>5</td> <td>1</td> <td>▲4</td> </tr> </tbody> </table>	区分	令和元年度	令和2年度	増減	定例会	12	12	—	臨時会	6	7	1	研修会	12	12	—	区分	令和元年度	令和2年度	増減	議案	33	36	3	報告等	26	24	▲2	区分	令和元年度	令和2年度	増減	議題	18	15	▲3	報告等	15	9	▲6	案件中の委員提案	5	1	▲4
区分	令和元年度	令和2年度	増減																																										
定例会	12	12	—																																										
臨時会	6	7	1																																										
研修会	12	12	—																																										
区分	令和元年度	令和2年度	増減																																										
議案	33	36	3																																										
報告等	26	24	▲2																																										
区分	令和元年度	令和2年度	増減																																										
議題	18	15	▲3																																										
報告等	15	9	▲6																																										
案件中の委員提案	5	1	▲4																																										

<p>令和3年度に向けた課題と改善点 (自己評価)</p>	<p>○研修会や自主的な勉強会を充実させ、佐賀市の教育課題に対する自己意見の形成を図り、十分な質疑や的確な問題提起ができるようにする。</p> <p>○時流の変化に伴う新たな教育課題等を見逃さず、教育委員から積極的に議題提案を行うなど、主体的に会議を進める。</p> <p>○佐賀市教育振興基本計画に則り各事業推進上の課題について定期的・計画的に協議したり、審議内容のその後の経過についても確認したりして、PDCAサイクルを機能させる。</p>
-----------------------------------	--

② 教育委員としての役割 (レイマン・コントロール)

<p>令和2年度の目標</p>	<p>教育全般の実情を把握し、教育委員自身が認識、知識を深め、問題点等を指摘し、専門家の判断によらない広く住民の意向を反映した教育行政を展開する。</p>
<p>令和2年度に取り組む改善策</p>	<p>市民や教育現場の情報収集を積極的に行い、教育課題の把握に努める。また、市民ニーズを教育施策に反映させる意識を持ち、それぞれの分野で培った知識や経験を生かして幅広い観点から意見を述べる。</p>
<p>令和2年度の実績</p>	<p>会議で取り上げた議題に関し、教育委員それぞれの考えを率直に述べ、協議を行うことができた。また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大で様々な困難が生じる中、現場の目線を重視した教育行政を展開するように努めた。</p>
<p>令和3年度に向けた課題と改善点 (自己評価)</p>	<p>○新型コロナウイルス感染症の状況が続くなか、市民や教育現場の情報収集の工夫をして教育課題の把握に努めるとともに、自身の経験を生かして教育行政に対する知見を深める。</p> <p>○子どもの健やかな成長に必要なことを、子どもや市民の視点で幅広く客観的に捉え、地域と教育現場が連携を深めた教育の充実を図る。</p> <p>○教育委員として、各人の立場・分野で培った知見・経験から感じる教育課題について、問題提起したり、意見を述べたりする。</p>

(2) 教育委員会の各種活動の状況

① 市民や教育現場の意見聴取

<p>令和2年度の目標</p>	<p>教育現場の意見を聴取して課題等を把握し、多様なニーズを反映した教育行政を推進する。このため、「教育長を囲む会」等で学校現場の声を聞いたり、関係団体と意見交換を行ったりすることで得られた意見や要望を教育行政に反映する。</p>
<p>令和2年度に取り組む改善策</p>	<p>学校など教育機関への訪問や各種活動に積極的に関わって教育現場の現状把握や課題調査に努めるとともに、改善点がある場合には、速やかに会議等で意見を出していく。また、社会教育委員やPTAなど関係団体との連携、相互理解を図るため、意見交換を行い、幅広い視野を持つよう努める。</p>



令和2年度の実績	<p>◇教育長を囲む会を通して、教育現場の課題を共通理解し、施策に生かすよう話し合った。</p> <p>・テーマ：今、自分が抱える（感じる）教育現場における課題（若手職員対象）</p>											
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>開催日</th> <th>会 場</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td>8月6日</td> <td>大財別館</td> <td>36人</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	開催日	会 場	参加者数	第1回	8月6日	大財別館	36人			
	区 分	開催日	会 場	参加者数								
	第1回	8月6日	大財別館	36人								
	<p>・テーマ：ベテラン教職員のモチベーションアップと若手教職員の育成</p>											
<table border="1"> <tbody> <tr> <td>第2回</td> <td>10月19日</td> <td>大財別館</td> <td>30人</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>2月8日</td> <td>大財別館</td> <td>34人</td> </tr> </tbody> </table>	第2回	10月19日	大財別館	30人	第3回	2月8日	大財別館	34人				
第2回	10月19日	大財別館	30人									
第3回	2月8日	大財別館	34人									
<p>◇小中学校訪問を行い、教育現場の実態把握や課題調査に取り組むことができた。〔※教育長を含む〕</p> <p>・学校訪問</p>												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>令和元年度</th> <th>令和2年度</th> <th>増 減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問学校数</td> <td>40校</td> <td>40校</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>訪問教育委員数</td> <td>延べ74人</td> <td>延べ100人</td> <td>26人</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	令和元年度	令和2年度	増 減	訪問学校数	40校	40校	—	訪問教育委員数	延べ74人	延べ100人	26人
区 分	令和元年度	令和2年度	増 減									
訪問学校数	40校	40校	—									
訪問教育委員数	延べ74人	延べ100人	26人									
<p>・えがおわくわく学校訪問</p>												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>令和元年度</th> <th>令和2年度</th> <th>増 減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問学校数</td> <td>10校</td> <td>14校</td> <td>4校</td> </tr> <tr> <td>訪問教育委員数</td> <td>延べ10人</td> <td>延べ19人</td> <td>9人</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	令和元年度	令和2年度	増 減	訪問学校数	10校	14校	4校	訪問教育委員数	延べ10人	延べ19人	9人
区 分	令和元年度	令和2年度	増 減									
訪問学校数	10校	14校	4校									
訪問教育委員数	延べ10人	延べ19人	9人									
<p>◇社会教育委員との意見交換会を通して、社会教育・生涯学習の推進に向けた現状や課題の共有を図ることができた。</p>												
<p>・開催日：1月26日</p> <p>・内 容：新型コロナウイルスと学校教育と社会教育の対応について 学校教育と社会教育の連携のあり方について</p>												
<p>◇PTA協議会との研修会を通して、保護者との学校教育に関する意見交換を行った。</p>												
<p>・開催日：8月28日、2月10日</p> <p>・内 容：校則について、コロナ禍における教育委員会としての対応と取組みについて など</p>												
<p>◇その他（会議・式典・大会等）〔※教育長含む〕</p>												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>令和元年度</th> <th>令和2年度</th> <th>増 減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問箇所数</td> <td>57施設</td> <td>61施設</td> <td>4施設</td> </tr> <tr> <td>訪問教育委員数</td> <td>延べ99人</td> <td>延べ101人</td> <td>2人</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	令和元年度	令和2年度	増 減	訪問箇所数	57施設	61施設	4施設	訪問教育委員数	延べ99人	延べ101人	2人
区 分	令和元年度	令和2年度	増 減									
訪問箇所数	57施設	61施設	4施設									
訪問教育委員数	延べ99人	延べ101人	2人									
令和3年度に向けた課題と改善点（自己評価）	<p>○コロナ禍であっても、可能な限り学校訪問や各種活動に参加し、市民や教育現場の生の声を聞くことで、教育現場の現状把握や課題調査に努める。</p> <p>○教育や子どもたちに関わる各種団体との意見交換を行い、教育現場の実情や教育課題についての理解を深め、改善の提案などに努める。</p>											

## ② 市長部局や関係機関との連携

令和2年度の目標	教育委員と市長との意見交換、協議等を行う機会を設けるなど、教育課題について市長部局との意思疎通を図り、課題解決に向けて横断的に協働して取り組んでいく。				
令和2年度に取り組む改善策	総合教育会議での市長等との協議内容を充実させるため、教育委員同士で十分な協議を行う。また、発達障がい者、不登校問題、貧困問題などについて、日頃から関係部署と連携し、課題の共有や相互理解に努める。				
令和2年度の実績	<p>教育委員と市長が率直な意見交換を行い、より一層の意思疎通を図ることができた。</p> <p>◇総合教育会議</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>テーマ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10月13日</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育のICT化に伴う支援の強化について</li> <li>・日本語指導支援事業について</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>	開催日	テーマ	10月13日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育のICT化に伴う支援の強化について</li> <li>・日本語指導支援事業について</li> </ul>
開催日	テーマ				
10月13日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育のICT化に伴う支援の強化について</li> <li>・日本語指導支援事業について</li> </ul>				
令和3年度に向けた課題と改善点 (自己評価)	<p>○子どもに関わる様々な問題について、子どもを中心として安心、安全な学校教育と地域での育ちができるよう、関係部署の働きを知り、課題の共有・相互理解に努める。</p> <p>○特別支援教育や児童虐待への対応、社会教育や国際理解教育など、市長部局と連携する事業や課題が多く、今後も連携を密にして共同して取り組む。</p>				

## ③ 事務局との連携

令和2年度の目標	学校事故等が発生した場合の他、報告すべき案件について、適宜適切に報告を受け、教育委員会と事務局とが密に連携する。特に重要な事案については、臨時の教育委員会を召集し、対応する。
令和2年度に取り組む改善策	緊急な事案については、事務局から遅滞なく報告を受けて、必要な対応策を協議する。また、事後経過についても適宜報告を受けるなど・事務局との緊密な連携を維持する。
令和2年度の実績	事件・事故などについて、遅滞なく適切に報告が行われるなど、事務局との連携を十分に図ることができた。
令和3年度に向けた課題と改善点 (自己評価)	<p>○緊急の連絡事項については、事務局からメール等で連絡を受け、必要に応じた対応策を協議する。さらに新型コロナウイルス感染症や大規模な自然災害で、事務局の機能が発揮されないことも想定して連絡体制の構築を重要視する。</p> <p>○会議や研修では、疑問点があれば積極的に質問し、必要な資料の提供を求める。また、事後経過についても適宜報告を受けるなど、事務局との緊密な連携を図る。</p> <p>○委員各々の立場・分野において触れ・収集した情報や教育課題等について、事務局とも共有を図る。</p>

④ 教育委員としての資質向上

令和2年度の目標	研修会や意見交換会、視察等への参加を通して教育行政に対する知見を深め、教育委員としての資質向上に努める。												
令和2年度に取り組む改善策	県内、全国の教育の動向を注視し、自らの意見形成を図るとともに、教育委員間で情報の共有を図る。また、教育現場や市民の要望や願い等の把握に努め、幅広い視野で教育課題の解決に向け議論できるようにする。												
令和2年度の実績	<p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、研修会への参加機会は減ったが、オンライン開催の協議会に参加するなど、新しい生活様式にも対応しつつ、教育委員としての見識を深めることができた。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>令和元年度</th> <th>令和2年度</th> <th>増 減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教育委員</td> <td>16人</td> <td>15人</td> <td>▲1人</td> </tr> <tr> <td>教育長</td> <td>14回</td> <td>8回</td> <td>▲6回</td> </tr> </tbody> </table> <p>※教育長以外の委員の参加延べ人数、教育長の参加回数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・九州都市教育長協議会</li> <li>・県市町教育長会連合会</li> <li>・県市町教育委員会連合会</li> <li>・市町村教育委員研究協議会</li> <li>・県・市町教育長意見交換会</li> <li>・市内教育施設の視察</li> </ul>	区 分	令和元年度	令和2年度	増 減	教育委員	16人	15人	▲1人	教育長	14回	8回	▲6回
区 分	令和元年度	令和2年度	増 減										
教育委員	16人	15人	▲1人										
教育長	14回	8回	▲6回										
令和3年度に向けた課題と改善点 (自己評価)	<p>○新型コロナウイルス感染症の影響で、会議や研修会の機会が減り、幅広い視野で教育課題の解決に向けて議論を深めることが難しくなっているため、オンラインでの意見交換に積極的に取り組むなどして教育行政に対する知見を高める。</p> <p>○市民や教育現場の要望や願い等の把握に努めるとともに、全国の教育の動向などを参考にして自らの意見形成を図り、教育行政に反映できるよう教育委員同士で課題解決に向けて活発に議論する。</p>												

教育委員会の活動状況の自己評価

自己評価	今年度自己評価 (令和2年度事業)	参考 (令和元年度事業)	参考 (平成30年度事業)
	概ね達成	概ね達成	概ね達成

【4段階評価の解説】

達 成	目標どおりの成果が上がっている。
概 ね 達 成	一定の成果は上がっているが、課題もあり、取組を改善又は強化し、成果を上げることが必要である。
やや不十分	成果が十分に上がっておらず、改善の必要がある。
不 十 分	成果がほとんど上がっておらず、見直しの必要がある。

(3) 教育委員会活動に関する評価委員からの評価

評価委員からの 指摘事項	項目	内容
	(2) ①	コロナ禍に対応した教育委員会の活動内容について、教育委員から意見があってもいいのではないかと。
評価委員からの 意見	項目	内容
	(2) ②	コロナ禍の中、よく学校現場を訪問するなどして現状を把握し、現場目線を重視した教育行政が行われるよう取り組まれている。
	(2) ④	GIGAスクール構想で教育現場が大きく変わるのに合わせて、教育委員も知識を深めていくことが重要である。

指摘事項に対する 改善策	項目	内容
	(2) ①	コロナ禍での教育委員会の活動については、今後も感染症対策を行いながら継続に努め、改善の必要性がある場合は、教育委員からも適宜指摘等を行っていく。

### 【3】評価結果

#### 2. 施策

**施策1 就学前からの教育の充実**

(目指す姿:子どもたちは、楽しく学校に通い、意欲的に学んでいる。)

①十分な成果が見られ、達成している ・ ②一定の成果が見られ、概ね達成している ・ ③一定の成果は見られるものの、やや不十分な部分も多い ・ ④成果が乏しく、改善を要する

評価:②一定の成果が見られ、概ね達成している

《判断の根拠》

成果指標が不十分なところもあるが、概ね達成できている。

《改善点》

- (1) いじめ対策の成果指標は、認知件数でなく対策の内容を評価できるものになるよう検討してほしい。
- (2) 特別支援教育などの多様性を受け入れる教育を進めていることを市民に対しても伝えていく必要がある。

《改善点についての対応》

- (1) いじめの早期発見、早期解決を目指しており、認知件数は更に増えていくことが予想される。よって、いじめ対策の成果を計る指標については、解決率を中心に評価していくこととする。
- (2) 市民の意識向上のため、市のホームページを有効活用するとともに、他にも情報発信の方法を見つけていきたい。

目標達成のための成果指標

成 果 指 標	基準値	実績値		目標値	調査方法
	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和6年度	
不登校児童・生徒の全体に占める割合	1.78%	1.95%	1.81%	1.47%	学校教育課調べ
園児が楽しく幼稚園・保育所(園)に通っていると感じている市民の割合	89.7%	85.7%	81.1%	95.0%	総合計画 市民意向調査
幼稚園・保育所(園)から小学校へ円滑に接続できたと思う小学1年生の学級の割合	100.0%	100.0%	93.8%	100.0%	保育幼稚園課「学校(学級担任)アンケート」
児童生徒が楽しく小・中学校に通っていると感じている市民の割合	87.6%	81.7%	79.5%	86.0%	総合計画 市民意向調査
子どもたちは小学校から中学校へ不安よりも期待を持って進学していると思う保護者の割合	72.3%	75.1%	69.9%	75.0%	教育政策市民満足度調査(保護者)
生徒(中学2年)の基礎学力の水準(※)	0.77	0.84	0.74	0.83	佐賀県中学校学習状況調査の実施結果
コミュニティ・スクールの設置校数	8校	8校	9校	14校	教育総務課調べ

(※) 佐賀県学習状況調査における目標到達基準を1とした場合の佐賀市の到達度

**重点的に取り組んだ事業**

**[基本事業2] 学力の向上と学習指導の充実**

**2-1 学力の向上と学習指導の充実**

**<自己評価>達成**

(目標)

新学習指導要領に求められる「資質・能力」を育成するために、重点事項として、「教師の資質・能力の向上」と「校内研究の充実」を掲げ、学習指導の工夫・改善や学習環境の充実を図る。

(取組)

- ・校内研究の充実を図るために、研究主任研修会を開催し、講師を招いての理論研修を行ったり、研究委嘱を行い、新学習指導要領の理念に沿った研究を行い、授業公開を行った。
- ・コロナ禍において、初任者研修等の縮小・中止に伴い、感染防止の対策を行い、佐賀市で初任者研修会や講師研修会を開催することで、経験の少ない先生の研修の場を確保した。
- ・佐賀市教育研究所において、「外国語活動・外国語部会」、「プログラミング教育部会」を立ち上げ、研修を行い、研究紀要にまとめ、研究成果を公開した。
- ・外国語指導助手(ALT)を小学校(3~6年)及び中学校に配置した。

(成果指標)

小・中学校では、基礎学力を身につけさせるよう授業を工夫していると思う保護者の割合  
 普段(月~金)、1日の中で、ICT機器を勉強のために使っている割合

	H30年度成果	R1年度成果	R2年度成果	R2年度目標
小・中学校では、基礎学力を身につけさせるよう授業を工夫していると思う保護者の割合	81.2%	73.1%	79.0%	82.0%
普段(月~金)、1日の中で、ICT機器を勉強のために使っている割合	—	—	66.4%	60.0%

<b>[基本事業6] いじめや問題行動対策の充実</b>					
6-1 いじめや問題行動対策の充実		＜自己評価＞達成			
<p>(目標) いじめ・いのちを考える日の取組や、児童生徒の主体的な取組を通して、児童生徒間の良好な関係を構築し、いじめの未然防止や早期発見、解決を図る。</p> <p>(取組) ・いじめ・いのちを考える日を毎月1日に実施し、いじめ防止の講話や生徒会からの提案などを行った。 ・生徒会役員リーダー研修会で、いじめゼロ宣言に関する活動についての紹介や各学校の課題について協議を行った。 ・「学校いじめ防止基本方針」による取組への指導・支援を行った。 ・学校問題解決サポート指導員やスクールサポーターを派遣し、緊急対応へ備えるとともに関係機関との調整を図った。</p>	(成果指標)	H30年度成果	R1年度成果	R2年度成果	R2年度目標
	いじめの認知件数	141	253	835	250
	いじめの認知件数に対し、解消した件数の割合	89.4%	99.5%	95.6%	—
<b>[基本事業7] 不登校等の対策の充実</b>					
7-1 不登校等の対策の充実		＜自己評価＞達成			
<p>(目標) 不登校児童生徒の学校復帰や社会的自立を促すため、学校・家庭・関係機関が連携して、不登校児童生徒及び保護者に対して個別や小集団での相談・指導などの支援を行う。</p> <p>(取組) ・学校支援:全小中学校へ不登校対策についての説明・指導・協議を実施した。 ・サポート相談員による訪問活動を通して、学校復帰のきっかけづくりを行った。 ・ICT学習支援員が、訪問支援を通して、不登校児童生徒の学習のきっかけづくりを行った。 ・くすの実(適応指導教室)において、児童生徒の自立に向けて指導・支援を行った。 ・学習支援員が小中学校24校において、不登校児童生徒の学習支援を別室にて行った。</p>	(成果指標)	H30年度成果	R1年度成果	R2年度成果	R2年度目標
	学校復帰又は改善傾向となった児童生徒	40.0%	46.8%	24.7%	40.0%
	くすの実入級生のうち、学校復帰及びチャレンジ登校をした入級生数	20	35	28	30
<b>[基本事業8] 特別支援教育の充実</b>					
8-1 特別支援教育の充実		＜自己評価＞達成			
<p>(目標) 学校全体で発達障がい等の様々な障がいにより特別な支援を必要とする児童生徒に支援できるよう校内支援体制の充実を図る。生活指導員及び特別支援学級支援員を学校の実態に応じて配置する。</p> <p>(取組) ・生活指導員70名の配置に加え、特別支援学級支援員を26名配置した。 ・生活指導員強化のため研修を実施。指導員の運用状態把握のため学校訪問。活用状況、配置要望の意見集約。 ・医療的な配慮を必要とする児童生徒に対し、学習面・生活面の両面で安定した学校生活を送ることが可能となるよう支援を行う子どもアシスタントを配置する。 ・管理職、特別支援教育コーディネーター研修の実施。 ・学校教育課、保育幼稚園課、こども家庭課、健康づくり課との情報交換、連携。 ・障がいのある幼児・児童の就学に関する説明会及び相談会の実施。 ・発達障がい児相談室「ひまわり相談室」での、児童・生徒、保護者、教職員の相談・支援。</p>	(成果指標)	H30年度成果	R1年度成果	R2年度成果	R2年度目標
	障がいのある子どもたちへ教育的ニーズに応じた教育を進めていると思う市民の割合	38.3%	44.3%	37.0%	50.0%
	障がいのある子どもたちへ教育的ニーズに応じた教育を進めていると思う保護者の割合	69.2%	68.1%	68.0%	75.0%
<b>[基本事業11] 地域とともにある学校づくりの推進</b>					
11-1 コミュニティ・スクール推進事業		＜自己評価＞達成			
<p>(目標) 地域と学校が目標やビジョンを共有し、地域と一体となって子どもを育むことができるコミュニティ・スクールの設置を推進する。</p> <p>(取組) ・令和2年度 新設置校(大詫間小)、再設置校(西与賀小)、設置校(赤松小、北川副小、城南中、松梅校、富士校) ・各校協議会へ教育委員会からオブザーバーとして参加 ・未設置校の学校長ヒアリングと説明を実施(久保泉小、本庄小、金立小、若楠小) ・久保泉小学校コミュニティ・スクール新設置(令和3年度)に向け、準備委員会への参加(2回) ・佐賀市コミュニティ・スクールパンフレットの作成・配布(学校職員、CS委員、公民館、地域住民等) ・特色ある学校づくり推進事業の実施(学校と教育委員会が協働して、コミュニティ・スクールに関わる学校運営のあり方を探り、特色ある学校運営を目指した)</p>	(成果指標)	H30年度成果	R1年度成果	R2年度成果	R2年度目標
	小・中学校は、学校の目標や計画・教育内容などを保護者や地域へ十分に広報していると思う市民の割合	44.1%	43.9%	42.0%	44.4%
	小・中学校は、学校の目標や計画・教育内容などを保護者や地域へ十分に広報していると思う保護者の割合	82.7%	81.7%	80.1%	82.4%
	小・中学校では、地域の人材や環境を活用した教育を進めていると思う保護者の割合	80.3%	79.2%	72.2%	79.6%

[基本事業15] 安全・安心な学校づくりの推進					
15-1 災害安全の推進		<自己評価>概ね達成			
(目標)	(成果指標)	H30年度成果	R1年度成果	R2年度成果	R2年度目標
地域住民や防災部署等と連携し、地域の特質に応じた防災対策・防災教育を推進することにより、児童生徒の学校生活等における安全を図る。 (取組) ・地域の特質に応じた学校避難確保計画の策定 ・地域の特質に応じた防災訓練等の実施 ・地域住民や防災部署と連携した防災訓練等の情報提供	地域の特質に応じた訓練等を実施している学校の割合	—	—	83.0%	83.0%
	災害から身を守る安全教室や訓練が重要だと思う子どもの割合	—	—	96.6%	—



## 施策2 自ら学ぶ生涯学習の推進

(目指す姿:市民は、身近なところで必要な知識や技術を学ぶことができ、学んだことを社会生活に活かしたり、生きがいを持って暮らしている。)

①十分な成果が見られ、達成している ・ ②一定の成果が見られ、概ね達成している ・ ③一定の成果は見られるものの、やや不十分な部分も多い ・ ④成果が乏しく、改善を要する

評価:②一定の成果が見られ、概ね達成している

### 《判断の根拠》

コロナ禍の状況に応じて対応しており、概ね達成できている。

### 《改善点》

(1) 学校の授業時間以外に読書をする児童生徒の割合が減っているため、子供たちが本に触れる機会をできるだけ増やすよう取り組んでほしい。

### 《改善点についての対応》

(1) 新型コロナウイルス感染症の影響により、子供たちに一番身近な学校図書館の利用が普段どおりにはできなかったことも要因のひとつと考えている。学校図書館の重要性を学校教育課とも改めて共有し、学校への支援を行うとともに、図書館でも児童書の充実、図書館や本に興味を持つ機会となるような講座や親子で楽しめるイベント等に取り組んでいきたい。

目標達成のための成果指標

成果指標	基準値	実績値		目標値	調査方法
	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和6年度	
仕事や学校以外で、何らかの知識や技術を身に付けるための取組をしている市民の割合	27.9%	30.0%	30.0%	50.0%	総合計画 市民意向調査
市立公民館の年度利用者数	701,903人	635,310人	423,883人	750,000人	公民館支援課調べ
現在、生涯学習(自分の生活や能力を高めるための、学習やスポーツ、文化活動[趣味・教養を含む]、ボランティア活動等)を行っている市民の割合	23.1%	25.3%	28.4%	40.0%	教育政策市民満足度調査(一般)
生涯学習を行っている市民のうち、学習の成果を活かした活動を行っている市民の割合	47.1%	45.8%	32.2%	60.0%	教育政策市民満足度調査(一般)
市立図書館のサービス(分館等含む)が充実していると思う市民の割合	60.3%	65.9%	65.8%	65.0%	教育政策市民満足度調査(一般)

## 重点的に取り組んだ事業

### [基本事業2] 公民館の機能の向上

#### 2-1 公民館利用者増に向けた取組の推進

#### <自己評価>概ね達成

(目標)	(成果指標)	H30年度成果	R1年度成果	R2年度成果	R2年度目標
新型コロナウイルス感染症の感染を防止するために、事業内容や規模によっては中止とする場合もあるが、人数制限などの感染防止対策を講じながら、事業を実施していく。(収容定員の50%以内(約20人)に制限、通学合宿等の中止、夏休み等の子ども対象事業の縮小など) コロナ下においても参加可能な手法を検討していく。	公民館の利用者数	701,903人	635,310人	423,883人	300,000人
(取組) ・感染防止対策(消毒や換気の徹底、人数制限)を講じながら、防災教育・国際理解・ICT(情報化推進)などの社会的重要度や住民の関心が高い講座・事業等を重点的に実施した。 ・公民館に来館することができない方についても受講できるように、自治公民館等に出向き、各種講座を実施した。(アウトリーチ型) ・また、試行的にオンラインを活用した講座や講座内容をHPに掲載することにより、感染防止だけでなく、来館できない方でも受講することができるようにした。 ・公民館予約システムの導入など、より公民館を利用しやすい環境整備を進めた。(令和4年4月稼働)	公民館事業(主催・共催)の参加者数	120,304人	96,116人	26,754人	30,000人

[基本事業3] 図書館利用の推進

3-1 子どもの読書活動推進事業

<自己評価>概ね達成

(目標)	(成果指標)	H30年度成果	R1年度成果	R2年度成果	R2年度目標
「佐賀市子どもの読書活動推進計画」に基づき、佐賀市の子どもたちが、学校、家庭、地域において意欲的に読書に親しみ、生涯にわたって続く読書習慣を身につけることができる環境をつくる。	子どもに家庭で本を読んであげている割合	91.4%	90.9%	92.6%	90.0%
(取組) ・新型コロナウイルス感染症の影響により出版数が減少した時期もあったが、利用統計による現状分析や予約リスト等を参考に、利用者のニーズに合った選書に努め、児童書の充実を図った。	学校の授業時間以外に読書をする小学生の割合	84.8%	84.0%	77.6%	86.7%
・季節やテーマに合わせたおすすめの本を、感染予防対策としてお願いしている短時間の利用でも選びやすいように工夫し、子どもたちの興味を引くよう展示した。	学校の授業時間以外に読書をする中学生の割合	68.4%	68.5%	60.6%	70.9%
・図書館に興味を持ち、より身近に感じてもらい取り組みとして、感染防止対策を取りながら、一日子ども図書館長や図書館たんけん隊、子ども司書講座、子どもの読書週間に合わせたイベント等を実施した。	市立図書館の児童コーナー利用者が満足している割合	92.8%	92.4%	95.5%	93.5%
・学校教育課と連携しながら、カリキュラム変更に伴う資料の選定を行い、各小中学校への団体貸出を行った。					
・子どもの読書活動推進を行うボランティアへの支援として、講師と会場をリモートで結ぶなどの感染防止対策を取り、読み語りボランティア養成講座を実施した。					

### 施策3 未来につながる文化の振興

(目指す姿:市民が子どもの頃から文化芸術や地域の歴史遺産に親しむ環境が整っており、市民自ら文化芸術活動や歴史遺産の保存・継承活動に取り組んでいる。)

①十分な成果が見られ、達成している ・ ②一定の成果が見られ、概ね達成している ・ ③一定の成果は見られるものの、やや不十分な部分も多い ・ ④成果が乏しく、改善を要する

評価:②一定の成果が見られ、概ね達成している

《判断の根拠》

成果指標では目標に達していないものが多いが、一定の成果は出ている。

《改善点》

- (1) 東名遺跡の利活用の取組では、企画展の実施時期を見直したり、学生ボランティアの力を活用して若い世代を呼び込んだりするなどの工夫ができないか。
- (2) 東名遺跡に対する子供たちの評価や、史跡の重要性が認知されているかなどを成果指標としてもいいのではないか。

《改善点についての対応》

- (1) 企画展については、集客面も考慮し、東名縄文館、市立図書館、吉野ヶ里遺跡展示室の3施設で行っている。後者2施設については、時期的な制約があり実施時期を自由に選択できていない部分もあるため、他施設の利用も含め実施時期の検討をしたい。史跡整備の設計段階で、市民向けのワークショップを計画しており、その際に学生ボランティア等への呼びかけを積極的に行い、担い手育成の面からも若い世代の意見が反映できるような工夫をしたい。
- (2) 出前授業や体験学習等のアンケートで、東名遺跡自体の評価や重要性に対する質問項目はなかったため、成果指標として活用できるような項目を設定したい。

目標達成のための成果指標

成果指標	基準値	実績値		目標値	調査方法
	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和6年度	
市内で開催された歴史関連のイベントや活動に参加または自ら取り組んだ市民の割合	24.6%	14.9%	9.6%	25.0%	総合計画 市民意向調査
市内で開催された文化芸術関連のイベントや活動に参加または自ら取り組んだ市民の割合	41.5%	35.7%	27.1%	50.0%	総合計画 市民意向調査
市内の文化財は、適切に保存・活用されていると思う市民の割合	44.6%	47.8%	51.0%	52.0%	教育政策市民満足度調査(一般)
文化・芸術に触れる機会が充実していると思う市民の割合	46.3%	45.6%	45.2%	50.0%	教育政策市民満足度調査(一般)

重点的に取り組んだ事業					
[基本事業1] 歴史遺産等の保存・継承と整備・活用					
1-1 東名遺跡の利活用の推進		<自己評価>概ね達成			
<p>(目標) 日本最古の湿地貝塚遺跡で、国史跡である東名遺跡を適切に保存するとともに、遺跡の重要性を広く市民に周知し、地域への愛着や誇りを高める。</p> <p>(取組) ・遺跡の価値と重要性を市民に伝えるために、講演会や企画展を実施 ・遺跡の重要性を子どもたちに教えるために、出前授業や体験学習を実施 ・史跡整備に伴うガイダンス施設建設用地の選定を実施</p>	(成果指標)	H30年度成果	R1年度成果	R2年度成果	R2年度目標
	東名遺跡出前授業参加者数	1,212人	1,199人	754人	1,200人
	東名遺跡体験学習参加者数	74人	76人	29人	100人
[基本事業3] 文化施設の運営・整備					
3-1 佐賀市文化会館施設改修事業		<自己評価>概ね達成			
<p>(目標) 佐賀県が整備するSAGAサンライズパークのグランドオープンにあわせ、関連する佐賀市文化会館の施設を整備する。</p> <p>(取組) ・関連施設の整備や車両動線、駐車場の取扱いについて、関係機関と連携会議やワーキンググループを実施した。 ・ペDESTリアンデッキ、ロータリー、周回道路等の整備のため、設計業務を実施している。 ・令和2年度から3年度の2か年で、外部改修工事(屋根防水・外壁改修)を実施している。 ・老朽化している西側大階段の整備のため、設計業務を実施した。</p>	(成果指標)	H30年度成果	R1年度成果	R2年度成果	R2年度目標
	SAGAサンライズパーク関連の文化会館施設整備等が完了した割合	—	—	10.3%	40.0%
	外部改修工事(屋根・外壁)の進捗状況	—	40.0%	60.3%	59.4%
	西側大階段整備の進捗状況	—	—	40.0%	40.0%

## 施策4 家庭・地域・企業等の教育力の向上

(目指す姿:全ての大人が子どもの育成に関心を持ち、かつ主体的に関わることで、子どもたちは、自らが社会の一員であると認識し、責任を自覚している。)

①十分な成果が見られ、達成している ・ ②一定の成果が見られ、概ね達成している ・ ③一定の成果は見られるものの、やや不十分な部分も多い ・ ④成果が乏しく、改善を要する

評価:②一定の成果が見られ、概ね達成している

《判断の根拠》

成果指標は、例年と変わらない実績に達している。

《改善点》

- (1)「子どもへのまなざし運動」は、より市民の目に留まるよう、工夫した啓発活動を行ってほしい。  
 (2)地域学校協働活動は、学校と連携して保護者などへの周知をしていくことが必要である。

《改善点についての対応》

- (1) 企業が実施する市内小中学校での挨拶運動にシンボルキャラクター「まなざし君」が参加し、企業のホームページでまなざし運動を紹介してもらうなど、他の団体、部署と社会教育課の広報媒体を相互に活用し、多くの市民への啓発に引き続き取り組んでいく。  
 また、市内の高等学校の地域課題解決型授業で、高校生の「出番・役割・承認」の創出に取り組んだ事例を広報するなど、課題であった高校生とその保護者に対する啓発も充実させていく。  
 (2) 地域学校協働活動推進事業は、コミュニティ・スクールの導入にあわせて実施しており、保護者などの学校関係者や地域の各団体に対し事業の趣旨を周知し、理解と協力を得ながら進めていくことが重要であるため、学校及びコミュニティ・スクール担当部署と連携して周知を図り、計画的に実施校数の拡充に努める。

目標達成のための成果指標

成果指標	基準値	実績値		目標値	調査方法
	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和6年度	
地域の行事や活動に参加している市民の割合	42.2%	34.7%	36.6%	55.0%	総合計画 市民意向調査
「子どもへのまなざし運動」の市民の認知度	36.1%	32.2%	32.5%	50.0%	総合計画 市民意向調査
「子どもへのまなざし運動」を意識して、子どもと関わるようになったと回答する市民の割合	34.4%	34.1%	33.6%	45.0%	教育政策市民満足度調査(一般)
佐賀市が好きと回答した割合(小学4年生から中学3年生)	89.6%	90.3%	90.3%	92.0%	教育政策市民満足度調査(子ども)
地域の行事、社会体育活動などの活動への子どもの参加状況	76.4%	78.5%	72.4%	85.0%	教育政策市民満足度調査(保護者)
犯罪・触法少年数が市内の小学生から20歳未満の数に占める割合	0.19%	0.16%	0.14%	0.18%	佐賀北警察署及び佐賀南警察署の統計データ

### 重点的に取り組んだ事業

#### [基本事業1] 子どもへのまなざし運動の推進

##### 1-1 子どもへのまなざし運動の推進

<自己評価>概ね達成

(目標)	(成果指標)	H30年度成果	R1年度成果	R2年度成果	R2年度目標
		市民の運動への認知度を高めると共に、運動の趣旨を理解し取り組んでいる団体、校区の運動への意欲を高め、他の団体また校区内への広がりを図る。また、家庭・地域・企業等・学校等が一体となって、社会全体で運動に取り組む機運を高める。	子どもへのまなざし運動の認知度(新成人対象)	25.0%	22.2%
(取組) ・企業に対し、運動の啓発グッズの活用を依頼 ・広める事業の推進(家庭・地域・企業等へ啓発グッズの配布、シンボルキャラクター「まなざし君」をプリントした「まなざしマスク」の活用) ・紹介する事業の推進(市報やフリーペーパー等による全市的な広報、「子どもへのまなざし運動推進専門官」による情報発信「つながるさがし」等のSNSの活用、FMラジオによる運動紹介番組「まなざし放送局」の実施) ・ほめる事業の推進(まなざしキラリ賞の表彰) ・推進委員会及び推進大会の開催 ・関係各課との連携 ・地域教育コーディネーターの配置(地域の教育力の向上と子ども達のふるさと意識を高める)	佐賀が好きと答えた新成人の割合	94.4%	91.2%	94.2%	90.0%

**[基本事業2] 地域と学校の協働活動の推進**

2-1 地域学校協働活動推進事業		＜自己評価＞概ね達成			
(目標) 学校と地域が連携・協働し、地域が教育活動に参画する地域学校協働活動を行うことで、子どもたちのコミュニケーション能力の向上と同時に地域の活性化が期待でき、子どもたちが安心して健やかに育まれる環境づくりと地域の教育力の向上を目指す。 (取組) ・地域住民や各関係団体等多様なメンバーで構成する「地域学校協働本部」を整備し、地域と学校をつなぐ連絡調整の役割を担う「地域学校協働活動推進員」を配置する。 ・学習や部活動支援(郷土学習、授業補助等)、登下校の見守り、花壇等環境整備、地域行事と連携した取り組み、地域人材の育成等の地域学校協働活動に取り組む。	(成果指標)	H30年度成果	R1年度成果	R2年度成果	R2年度目標
	地域の方は、子どもたちの教育に自主的に関わっていると思う市民の割合	53.0%	60.6%	55.5%	62.0%
	地域の方は、子どもたちの教育に自主的に関わっていると思う保護者の割合	82.7%	82.5%	81.2%	83.5%
	地域は、子どもたちに「地域の一員」として活動する場を作り出していると思う市民の割合	60.3%	57.4%	46.0%	61.0%
	地域は、子どもたちに「地域の一員」として活動する場を作り出していると思う保護者の割合	80.1%	79.2%	77.4%	81.0%
実施校数	—	—	3校	3校	